

【事例】 海岸利用者の安全を確保するための道路交通法の臨時適用

<p>社会資本の概要</p>	<p>【所在地】 石川県羽咋市 【社会資本の種類】 海岸 【社会資本の名称】 千里浜なぎさドライブウェイ 【事業主体】 石川県</p>
<p>配慮の概要</p>	<p>夏期に集中する利用客の安全を確保するため、本来は海岸であるにも関わらず、夏の1ヵ月間のみ臨時的に道路交通法を適用している。 【実施開始時期】 1966年</p>
<p>位置図</p>	
<p>施設の状況写真</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>多くの観光客で賑わう夏の千里浜なぎさドライブウェイの様子。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>海水浴シーズンの交通規制の案内標識。</p> </div> <div>  <p>交通標識が随所に設置されている様子。</p> </div> </div>

<p>観光との関わり</p>	<p>千里浜海岸は、石川県羽咋郡宝達志水町から羽咋市に至る、長さ約8kmの長大な砂浜である。砂の粒子が非常に細かいため、海水を含むと自動車が走行できるほど固くなる。世界でも非常に珍しいこの海岸は「千里浜なぎさドライブウェイ」と呼ばれており、石川県の重要な観光地となっている。</p> <p>○千里浜の利活用に向けた取り組み</p> <p>千里浜の管理者である県と、地元の1市2町による羽咋郡市広域圏事務組合が協力し、千里浜の利活用に取り組んでいる。そのひとつが、1966年から実施されている夏期の交通安全対策である。この取り組みは、とりわけ交通量が増加する海水浴シーズンに、利用客の安全を確保する目的で始められた。また、海岸の美化活動、養浜活動、PR活動などにも精力的に取り組んでいる。</p> <p>○観光効果</p> <p>維持管理の取り組みにより、安全性、利便性、知名度が向上し、毎年、夏期の1ヵ月だけでも約20万人の観光客が訪れている。</p>
<p>配慮事項</p>	<p>○千里浜なぎさドライブウェイを中心とする観光地の形成</p> <p>石川県では千里浜なぎさドライブウェイを快適に走行できるようにすることで、金沢と能登の中間に千里浜を中心とした観光地を形成し、県全体の観光の魅力をアップさせようと考えていた。一方、地元市町も、金沢から能登への通過点という位置付けから脱却し、観光客を呼び込みたいと考えており、このことから千里浜なぎさドライブウェイを中心とする観光地の構想が生まれた。しかし、観光客の自動車が增加すれば、交通安全が確保されなければならない。特に海水浴で交通量が増加する夏期の交通安全対策は必須であった。</p> <p>○夏期の交通安全対策</p> <p>千里浜なぎさドライブウェイは石川県と羽咋郡市広域圏事務組合が協力し、管理を行っているが、夏の交通量増加時期は、その対応にも限界がある。そこで地元警察署に協力を依頼し、7月第3土曜日からの1ヵ月間のみ、本来は海岸である千里浜なぎさドライブウェイに臨時的に道路交通法を適用できるようにした。これにより交通標識の設置やパトカーによる巡回も行われ、利用者の安全を確保できるようになった。</p>
<p>その他の工夫等</p>	<p>○千里浜の利活用に向けた様々な取り組み</p> <p>石川県と地元市町は、以下のような取り組みも行っている。</p> <p>①美化活動</p> <p>1976年から県の補助金による美化活動を行っている。現在でも県がビーチクリーナーを羽咋広域圏事務組合に貸与するなど、砂浜美化を促進している。</p> <p>②養浜活動</p> <p>冬期風浪や砂の供給量の減少などにより砂浜の侵食が進行しているため、1984年から養浜を実施している。また、2007年から千里浜のなぎさを自らの手で守ろうという「一人一砂運動」を展開している。さらに、2008年からは人工リーフ事業が開始されている。</p> <p>③PR活動</p> <p>千里浜海岸保全・利活用促進協議会が中心となり、国際シンポジウムの開催や、夏期の無料循環バスの試験運行など様々な企画を精力的に実行している。</p>
<p>連絡先</p>	<p>石川県土木部河川課水政グループ TEL:076-225-1736 http://www.pref.ishikawa.jp/kasen/index.html</p>